第三者評価結果概要版（通所介護【デイサービス】）

○基本情報

法人名	社会福祉法人葛飾福祉館
事業所名	こひつじデイサービスわが家
所在地	葛飾区四つ木１丁目６番５号
連絡先	03-5654-0817

○事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）

１）利用者の尊厳と権利を第一に大切にすること
２）利用者が主体的に意思決定できるように支援すること
３）利用者の望む生活が何かを常に考え、利用者と共に問題解決していくこと
４）地域の中で暮らす高齢者であるという視点を常に持ち、家族や友人、ボランティアさんや地域の方と、地域の課題を共有したり解決に向けて協働すること
５）それらを実現する専門性を職員が身につけること

○全体の評価講評（特に良いと思う点）

【地域のネットワークへの積極的な参画】

事業所の運営は、地域の町会や老人会等で組織されたNPO法人との協働の形態をとっており、行事や会議を通じた連携により、利用者が社会との接点や参加の機会を得られるようにしている。また、地域とのつながりを重視するミッションを達成するため、事業者連絡会・町会・地域包括主催のオレンジカフェ・地域ケア連絡会などの機会に積極的に参画している。さらに、法人で地域活動委員会を組織し、法人職員全体が、地域交流イベントなどに関わりを持つことで、地域貢献に対する意識を高め、地域社会の福祉の推進に貢献できるように取り組んでいる。

【ボランティアや地域の方・子ども達との積極的な交流】

施設長が担当者となり、ボランティアの受入れや介護サポーターの受け入れを積極的に行っており、大学生の介護体験・介護福祉士を目指す専門学校生の実習受入れも行われている。また、事業所の専門性を活かして、認知症等の情報を発信することで、地域で見守ってもらえるネットワーク作りを進めていることから、地域の交流の場にもなっていて、利用者が幅広い年齢層の地域住民と触れ合える機会がつくられている。保育園との交流も活発で、運動会に招待されたほか、クリスマス会や敬老の日などには園児を招待しており、お互いに良い関係が築かれている。

【ビジョン・ミッションの浸透】

法人理念をもとに作られた事業所のミッション『家族や地域と連携しながら利用者本位のサービスを追求する』を基本として、専門的な援助・支援を行い、人と人とのふれあいを大切にした運営が目指されている。ミッションは、事業計画書に明示されて全職員に対して配付されているほか、職員が常時携帯している人員配置表や社員証の裏にも明示され、日々の業務でいつでも確認できるようにしている。利用者にも、パンフレットや重要事項説明書で周知することで、安心してくらせる地域社会づくりに向けて取り組んでいることを伝えている。

○全体の評価講評（さらなる改善が望まれる点）

【業務の体系化、標準化】

理念・ミッションで、組織全体の価値基準が示され、サービスの質の向上・稼働率の向上が施設目標となっていることから、人材育成や業務の効率化・業務の標準化が必要となっている。現在、入浴マニュアル・送迎マニュアル・排泄介助マニュアル・防災マニュアル・個人情報保護マニュアル等の利用者支援のマニュアルは整備されているが、コンプライアンスの遵守・人材の定着率の向上・モラールの向上・業務水準の一定化に向けて、体系的な業務マニュアルの必要性が高まっている。業務の体系化・標準化のため、早急な対策が待たれるところである。

【ホームページでのさらなる情報発信を】

法人として地域福祉の拠点となるべく年間を通し様々な活動を行っており、「福祉かつしか」や「わが家だより」での情報発信のほか、各事業所情報を閲覧できるホームページも立ち上げ地域への透明性の確保もなされている。しかしながら近年インターネットでの情報収集が一般化していることもあり、現在のホームページでの掲載内容では情報量が充分とは言い難く、更なる内容の充実についての検討がなされている。幅広い情報の発信を行う事で事業所の方針や提供するサービス内容についての理解が深まる事からも今後の取り組みが待たれるところである。

【目標管理と評価の仕組みづくり】

職員の質の向上のために、職員面接を定期的に実施して、職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している。また、階層別に求められる知識・能力を踏まえて、職種別・階層別の外部研修を研修計画に位置付け実施している。しかしながら、各職員の評価にあたっての目標管理制度が確定しておらず課題になっている。目安となる課題を設定し、その達成度によって管理者と職員双方が納得できる評価を行う仕組み作りに加え、キャリアパス制度への取り組みや専門職としての知識や技術を高められる機会の更なる充実等の対策が求められているといえよう。

○事業者が特に力を入れている取り組み

【職員間の連携・情報共有】

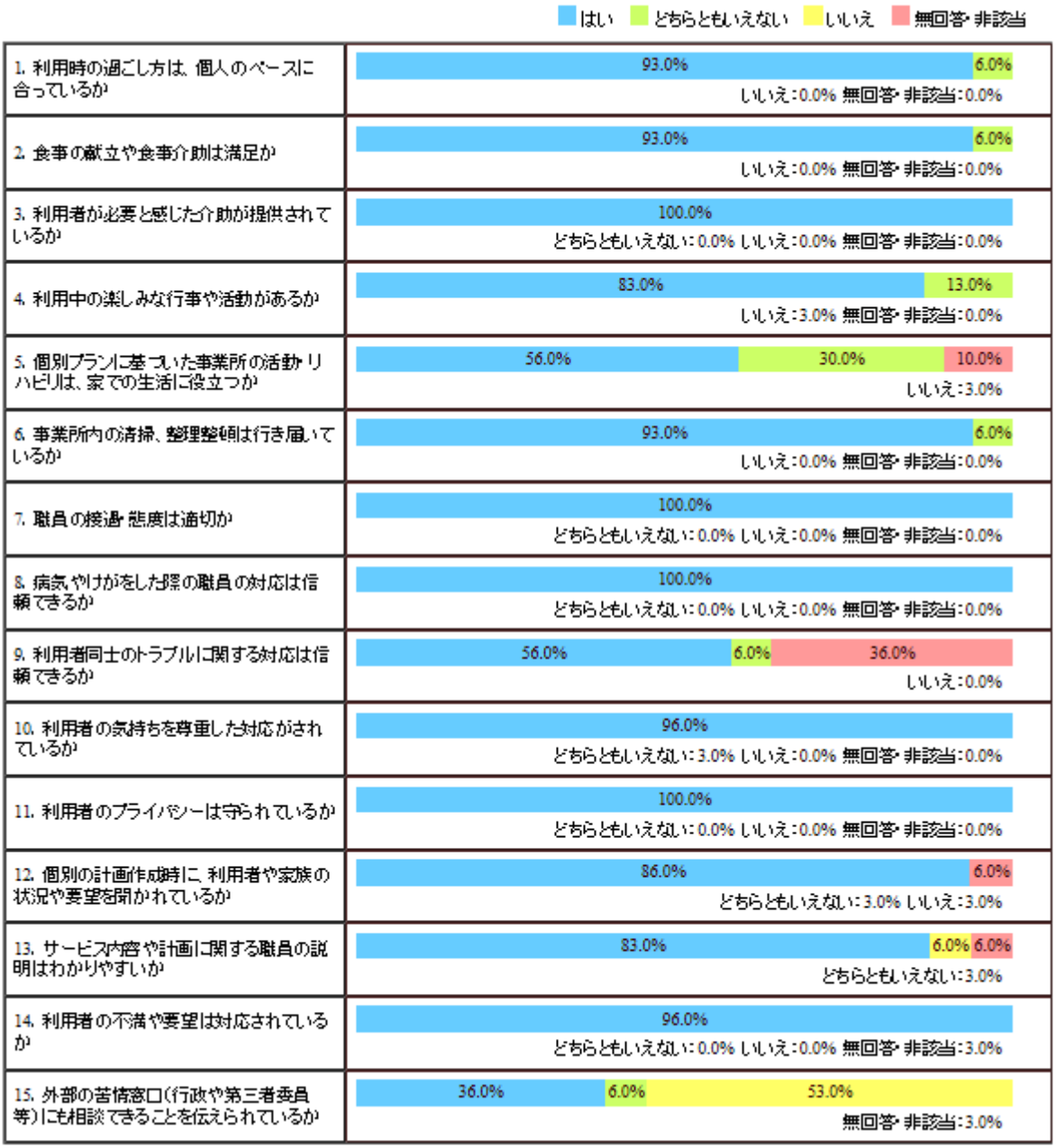
利用者に対する支援にあたっては、個別ケアの充実に取り組んでおり、利用者のライフヒストリーは職員間で共有され、個人のライフスタイルを最大限尊重したサービス提供に活かされている。利用者一人ひとりのニーズや課題ついては、通所介護計画書の写しを介護職員が毎日手に取る個別介護記録ファイルに入れて共有しているほか、毎夕行なっているミーティング時に必要に応じて話し合い評価を行なっている。また、家族との連絡帳が充実しており、職員全員が連絡帳の記録を閲覧し把握することで、家族の要望を取り入れた利用者本位の援助を実践している

【充実した支援プログラム】

外出レクでの行き先、音楽レクの歌の希望、上映する映画の希望、行事食の内容、季節行事の企画の際などには、一人ひとりに聞き取りを行い、利用者の声をサービス提供に反映する取り組みを行っている。また、利用者の日常生活動作の維持・向上に向けた取り組みとして、リハビリ専門職による生活機能動作の研修を受け、機能訓練プログラムとして利用者に提供することで生活の質の向上が図られているほか、ボランティアによる音楽演奏や絵手紙・習字教室などのアクティビティ等楽しい活動をおこなって、利用者の生活に潤いが持てるようにしている。

【最適な職員配置とアットホームな環境】

利用者の人数や介護度の度合い・入浴予定者の人数などを考慮して、職員を必要な時間に最適に配置できるように計算された人員配置表を毎日作成している。各職員が携帯することで、自身の役割や全体の動きを常に確認できる体制となっており、事業所の方針である個別のニーズに合わせた利用者本位のサービス提供がなされている。また、同じフロアーに管理者・職員・利用者がいることで、職員や介護サポーター・ボランティアが利用者と親密に関われる関係になっており、施設の名前となっている「わが家」を実感できるアットホームな環境となっている。

○利用者調査結果

有効回答者数	３０人
利用者総数	５２人